

Close-up 第35回

クローズアップインタビュー

Interview

日本レーザー

—人間こそ財産、士気向上に尽力

レーザーの専門商社の草分けとして1968年4月に設立された(株)日本レーザー。以来、世界トップクラスのメーカーの技術や製品を輸入し、大手上場企業を中心とした産業界向けに提供。また、東京大学や京都大学などの大学研究室、学術研究機関に対し、最先端理化学用レーザーから汎用性の高いレーザー装置の提案などを行い、日本最大のレーザー専門商社の地位を築いている当社の近藤社長に話を聞いた。(聞き手/東京支社情報部 安部 隼人)

—前期は、43年の歴史のなかで過去最高の業績を記録しましたね。

リーマン・ショック前の2008年第2四半期に非常事態宣言を発令し、“我慢の年”と位置付け、翌2009年を“学びの年”として、レーザー技術の応用分野や市場を開拓しました。そして、前期の2010年12月期は、期初に予想していたとおり、これまで種まきしてきたものが一気に刈り取れた“大爆発の年”になりました。米国ニューポート社の商権を獲得するなど多くの製品が増収に大きく貢献し、通期売上は前期比49%増の約39億円、当期利益が前期比4倍となる約1億9600万円と、過去最高の業績を記録できました。

—近藤社長が就任した1994年は、債務超過の状態でした。目覚しい再生ですね。

当社は、71年に大手電機メーカーの100%出資子会社になり、歴代社長はすべて親会社からの出身者が就任していました。いわゆる天下り企業ですね。結果、バブル崩壊後に債務超過に転落し、経営危機に陥ってしまったのですが、再生を目的に親会社から送り込まれたのが、私でした。就任から17期連続で黒字経営を達成し、純資産が5億円を超える安定企業に成長しました。

—日本最大のレーザー専門商社と言われるまでに成長した原動力はなんですか。

それは、間違いなく社員です。2007年に親会社から独立する際、経営陣だけでなく社員も共同で株式

「どんな経営環境においても、問題は社内にある」と語る近藤社長



を取得するマネジメント・エンプロイー・バイアウト (MEBO) を採用しました。この結果、社員に甘えがなくなり、“会社経営は自分次第”という自己責任意識と危機意識が芽生え、厳しいなかでも職場は活気であふれています。

—あまり例のない手法ですね。

そうですね。社員からの出資は任意としていましたが、予定の2.4倍の応募がありました。昨年入社した経済的に苦しい新入社員からも出資希望がありました。当社ほどの規模で役員、嘱託を含めた社員全員が株主になっているのは日本で唯一でしょう。フラットな職場環境で、全社員が日本レーザーの発展を心から望まなければ、実現できなかったと思います。

—今期はいかがでしょうか。

拡大策を取らず、守りを固める“ニューチャレンジの年”にしています。社員の成長が企業の成長を支えるという視点に立ち、社員のレベルアップに力を注ぎます。新たなマーケットに挑戦し、色々な事業モデルを展開することで不況への耐久力を高めていきます。

どんな環境にあっても、赤字やリストラの責任は100%社長にあります。私が社長就任して以降、一度も退職の肩たたきをしたことはありません。常に問題は社内、ないしは社長である自分自身にあるという責任感を持ち、どんなに経営環境が悪化してもそれに立ち向かっていきます。

会社概要

(株) 日本レーザー

企業コード：981055885

東京都新宿区西早稲田2-14-1、電話03-5285-0861

近藤宣之社長

設立：1968年4月、資本金：3000万円

年売上高：約38億9800万円 (2010年12月期)

従業員：55名

<http://www.japanlaser.co.jp/>